

=私たちの活動 4つの柱=
 *制度化と指導員の身分保障
 *専門性と仕事の確立
 *父母と共に学童保育運動の発展
 *全国の指導員との団結と連帯

建交労全国学童保育部会

ニュース学童保育

2023. 9. 5.
 NO. 104
 全日本建設交運一般労働組合
 全国学童保育部会 発行
 編集：事務局

学習し保育を見つめる

学童保育の
理解が広がる

南魚沼分会

南魚沼は雨がほとんど降らず一日中暑い日が未だに続いています。我がクラブは夏休み中、外での活動2回に留まり体育館活動と保護者会行事のお祭りの準備と本番で過ごしました。

皆様の御陰で南魚沼の学童もやっと認知度と必要性が認められつつある事を感じています。小学校の体育館活動、保護者会行事の学校使用、長期休業日の利用の仕方など以前と違いスムーズに行えます。

南魚沼分会の一番の問題点は職員不足です。雇用条件の低さと専門性の必要性に見合った対価が与えられず募集をかけたも殆ど応募なし状態です。子どもたちのいない時間帯の明確な仕事内容や打ち合わせから出勤業務が許されるのは所長の

職員不足

施設環境も少しずつですが、整いつつあります。

4年ぶり、リアル開催～中央大会～

8月26～28日、群馬県ホテル磯部ガーデンにて建交労第25回定期大会が開催されました。部会から立嶋部会長、山田副部会長が特別代議員として出席しました。

大会初日に特別報告として、立嶋部会長から全国学童部会の活動と11月の中央行動、署名の取り組みの協力について発言されました。

2日目には愛知学童支部の市川代議員が発言し、現場でのコロナ禍での保育内容や組合活動の大変さが語られました。

また、新潟県本部、福岡県本部の代議員から学童保育の要請署名に県本部上げて取り組んでいるとの発言もありました。

機関誌コンクールでは、愛知支部の「支部ニュース」が優秀賞、全国部会の「ニュース学童保育」が努力賞の表彰を受けました。(立嶋峰史)



機関誌コンクールの受賞を受ける山田副部会長。

辞めていく若者

組合員活動は組合員を増やそうと簡単なチラシを作って説明をしたりしています。現状は難しいです。

南魚沼も殆どの職員は50歳代60歳代です。若者数人も頑張っていますが、雇用条件の低さと横の繋がりが無く相談相手がいなくて辞めていく若者もいて残念でなりません。



のみです。私達の課題は勉強不足で説得出来る材料を持っていません。そのため学習会に参加できるチャンスを狙っています。

新潟県本部で学習会

6月18日、新潟市で県本部主催「学童保育制度・政策要求」学習会にお誘いを受け南魚沼分会から1名参加しました。

その方の報告によると、立嶋部会長による「わたしたちが求める学童保育所の最低基準」の講演の中で、保育観のすり合わせの重要性。保育指針の内容より自分は大切にされていると思える保育提供の重要性。

学童で大切にしたい活動は遊びの中からも育まれる仕事であること等を学びました。

こどもにとって学童で緩やかな時間を過ごすことも必要なことであり、また、遊びの中からも学び成長していく過程があることを改めて感じました。

(南魚沼分会)

田中朋子)